「動画の時代」

私自身もそうなのだが、ＳＮＳでショート動画を見る機会が多くなり
画像や文書を読まなくなった。

そんな時流だが、
・「独り言川柳」を毎日詠んで画像と注釈をＳＮＳにアップ
・「エッセー」として１６００字程度の短文をＳＮＳにアップ
と2本を続けている。

ＳＮＳで特に Facebook ではフォローして下さる方がいて
時々、コメントを送って頂いているという状況。

閲覧数は結構あるようだが、やはりスルーされているのかも知れない。

私自身は友人やお客様が読んで頂ければ最幸と思って書き始めて
「独り言川柳」は数の上では3千首を超えており、
「エッセー」も２３０本になっている
と「数」の壁を突破して「勢い」と「流れ」がついて「習慣」として定着
という具合になっている。

つまり、マクロに見れば「自己満足」を他者に押し付けている事にもなるが
中には、「独り言川柳」や「エッセー」に触れて「気付き」なった方もいらっしゃり
それだけでも書き甲斐があるのだ。

私の得意な「イノベーター理論」で言えば、
読んでレスポンスを頂ける方をイノベーターとすれば約2.5％なので
その40倍の方が読まれていると思われるが
閲覧数はさらに10倍程なのでサッと見流す方が多いのかも知れない
と思っている。

こんな風に自己満足的な解釈をしているが
時流は動画で「ドパガキ」という言葉が流行語になるように
パッと見る、つまり、１０秒20秒で面白さが分かる
と言う風になっているのも事実。

確かに、子供が踊っている動画は可愛いし、動物も可愛い。

つまり、サイダーやラムネで感じる清涼のように、
瞬間に可愛いと思い、しかし、長くは見る必要もない
というようなコンテンツが大衆受けしていると思っている。

従って、文字や文章はピンチであり、
動画の中で、短く刻んで表示するなどの工夫が凝らされている
という風に進化しているように思う。

「単語」の世界なのだ。

流行語の多くは短縮語だが
「動画」や「画像」に「単語」がくっついている感じで
これもその内、短縮語の世界に入るのかも知れない。

こんな時流の中、
私の「独り言川柳」や「エッセー」がさらに認知されるには
小見出しなどで分かり易くする工夫が必要かも知れないが
それでは論文みたいになってしまうかも
と危惧して躊躇している。

それならば、AIを活用して
イラストや短編動画を作るという世界に入り込む
というレベルアップが必要になる。

確かに、ビジュアルで表現するのは効果的だと思うが
元は「独り言川柳」だったり「エッセー」と文書の世界なので
「独り言川柳」なら注釈文を使って動画やイラスト生成が可能だが
「エッセー」は約１６００文字なので難しいように思っているが、
実際にやってみないと分からない。

つまり、「独り言川柳」や「エッセー」を書いた上で、
AIを駆使して制作することになる。

まぁ、時間的な余裕はあるのでチャレンジしたいと思うが

何せ、新しい事を覚えることが億劫な年齢になっており
「そのうちに」という後伸ばしが続いているのだ。

私は、ある日、突然という具合に「チェンジ」する性格なので
「そのうちに」もキッカケがあれば、始めるかも知れない。

つまり、どのAIを使えば、どんな風になるかと理解が出来れば
あとは実践でDo-Howを得るだけと思っている。

ひょっとして、今日にも息子に手ほどきをしてもらい、
始めているかもしれないが、
レベルの高い生成を期待するならば有料版が必要なようなので
やっぱり、「そのうちに」と後伸ばしかな。